

そして うたおう

NO.226 2024年8月5日発行

<練習予定> 8月..... 5日 12日(櫻井先生) 19日(今井先生) 26日

※19日の練習場所は中央公民館です。

9月..... 2日(ステージ練習) 8日(第5回定演) 16日 30日(櫻井先生)

※2日の練習場所は中央公民館大ホールです。

10月..... 7日 14日 21日 28日(櫻井先生)

※21日の練習場所は中央公民館です。

<練習曲> 「花に寄せて」 星野富弘 作詞 新実徳英 作曲
「コダーイ混声合唱曲集より」 ゴルタン・コダーイ 作曲
「近代日本名歌抄」 信長貴富 編曲
「今日もひとつ」 星野富弘 作詩 なかにしあかね 作曲

<練習日・時間> 月曜日 18時30分～21時00分

★18時15分～20時45分(櫻井先生)

<練習場所> 崇善公民館

<練習欠席等の連絡> 男性:鈴木 090・8452・5037

女性:梅林 090・4822・7882

HP



～心に花を咲かせて～

早いもので演奏会まであと一カ月となりました。練習は今日を含めて5回です。まだ不安な部分もあるかと思いますが、この一カ月の練習がとても大切になります。本番のステージに立つ直前までよりよりハーモニーとなるようお互いに努力いたしましょう。そして一人でも多くの方に自分たちが練習してきた成果を聴いていただきましょう。

練習と並行して演奏会の準備も進めています。プログラムも作成中です。9日(金)にはホールの舞台スタッフさんと打合せをおこないます。その後役員で演奏会に向けての最終確認をします。演奏会当日のスケジュール等については、12日(月)の練習時にプリントを配布してお話しします。

まだ演奏会の案内をしていない方はいませんか。あの方、この方…。まだいらっしやるかと思えます。いま一つの声かけ、案内をお願いいたします。

お客様もそして私たちも、当日は心に花を咲かせましょう！！

カンテムス少女合唱団演奏会に参加して

兵頭 英明

7月20日(土)、7人衆(石井薫、江川、兵頭、平田、宮村夫妻、吉田)が、ハンガリーの「カンテムス少女合唱団」(約40名)の演奏会に参加のため「かながわサイエンス(KSP)ホール」に行ってきました。

当少女合唱団は指揮者のデーネシュ・サボーによって1975年に設立し、コダーイ音楽小学校の生徒(12~14才)によって構成されています。

昼の部の演奏会は次の3団体による歓迎演奏で始まり、それぞれ素晴らしい歌声を聴かしてくれました。

① THEO 混声合唱団(指揮者:中原勇希先生、約20名。2曲目で7人衆が加わり「Veni, Veni Emmanuel」を合唱)

②高津市民合唱団(約110名)

③横浜市立大綱中学校合唱部(約70名、令和5年度全日本合唱コンクール全国大会銀賞受賞)

そして、カンテムス少女合唱団のステージとなった。コダーイを中心に歌われ、最初は舞台にて歌い、そして客席を取り囲み我々のすぐ横にて歌ってくれました。各個人の安定した声・ハーモニーの素晴らしさ・指揮の素晴らしさ、ブラーヴァの一言です。最後に我々歓迎演奏者も立ち、サボーさんの指揮で「ふるさと」を歌った。素晴らしい合唱団・指揮者に感謝です。

その後、平塚の「居酒屋どんどん」にて、今日の感動を再確認しました。

～シリーズ 私と合唱～

私と合唱

光井 貴司

私の音楽歴は、中学校で入った吹奏楽部から始まります。

楽器はトロンボーンで、同学年3人組で、いつも行動を共にしていました。同級のガキ大将がバストロンボーンを希望したので、私はセカンド、下級生が入ってくるとトップになるという慣習に従ったパート割り当てでした。

トロンボーンは、華やかなトランペットとは異なり、メロディはほぼ無く、和音をつくる役目を与えられています。顧問の先生が、ピッチを変えられるハーモニートレーナーというキーボードを使い、曲の隅々まで、音を重ねていく指導をしていました。根音はもっと安定させろ、第5音は高めだ、第3音は長調と短調では違うぞ、セブンスはバランスを考えろ、などといった具合ですね。

私自身は、当時どこまで理解していたのかあやしいですが、のちにコーラスをやるようになると、このときの感覚にかなり通じるものがあります。上手くいくこと、上手くいかないこと、どちらの感覚もです。金管楽器、特にトロンボーンは機構的に管の長さを変えてピッチを自在にコントロールできるはずなのですが、

意外と上手くいかないです。音が鳴る原理は唇の振動なので、人の声と似ているところがあります。私の場合だと、音色が曇って、低く聞こえ、ピッチがはまらない、というのがずっと悩みでした。何だか、今、コーラスでも全く同じですね。パーソナリティ的なところもあるのかも知れませんが、何とかしなければ。

楽器は、他にも経験しています。

中学の3年生では、学校再編でパートに偏りが生じ、一時的にユーフォニウムを吹くことになりました。トロンボーンとマウスピースが同じなので、習熟期間無しで物理的にはすぐ吹けるだろうということなのですが、違うのは旋律（メロディ）を担当する楽器だということです。ソロもあって傍目には羨ましそうですが、私にこういうことはあわないようで、良い思い出がないです。今でも、合唱のテナーだと時々旋律が回ってくる訳ですが、本質的に同じことが言えて、なかなかパリティといかないです。。かくしてコーラスパートのほうが自分の居場所を感じる次第です。

大学では、弦楽器の世界を知りたいと思い、弦楽の室内楽をやっているサークルを訪ねました。入学から少し遅いタイミングだったので、空席のあるパートは、ビオラかコントラバスのみ。（ありがちです。）

今だったら自分の性格を踏まえればビオラを選ぶところですが、当時は性格（内向的な性格）へのコンプレックスを克服したいと思っていたのと、吹奏楽ではひそかにバスパートに憧れていたのも、コントラバスを選びました。

コントラバスは社会人になってからもアマチュアオーケストラで続けていました。この楽器が教えてくれたことは、自身が普段の生活で思っているレベル感よりも、とにかく積極的であれということ。打楽器のティンパニと同じような役割があって、シンプルなところと言えば、リズムをしっかりと立てたり、和声でドミナントとトニカをしっかりと鳴らすといったことくらいでも、オケの皆が俄然、活き活きとしてくるといったことが経験できます。自分のことに固執するよりも、チームに動機を与えるという意識が優先されます。これは、自身が会社組織の中でキャリアを積んでいくうえでは良い影響を及ぼしたと思いますが、多少無理をしているかなとも思います。

さて、合唱経験は、きっかけは5年ほど前、ベートーベン第九の公募合唱団です。パートは、バスに応募するつもりでしたが定員で締め切られていたので、テノールで申し込んでみました。第九がきっかけでコーラスを始める人は意外と多いようで、私もその例にたがわずとなりました。その次は、七夕のコールレジェンドです。

以降、合唱団によって、テノールだったり、バスだったりです。

平塚シビッククワイアでは、テノールのパートを歌っているのですが、パート人数の多い合唱団では気づかなかった自分の特性なども分かったりするので（勉強になることが多いので）、毎週、いろんなことを試しています。

これからも、どうぞよろしくお願ひします。

演奏会のご案内 ※順次掲載してまいります。

☆ゆるりつながりコンサート 9月21日(土) 14時30分開演